



地域社会における 共創と総合知

新潟大学 佐渡自然共生科学センター
コミュニティデザイン室

豊田 光世

自己紹介

新潟大学 佐渡自然共生科学センター・准教授
コミュニティデザイン室・室長

専門分野：環境哲学，合意形成学，子どもの哲学

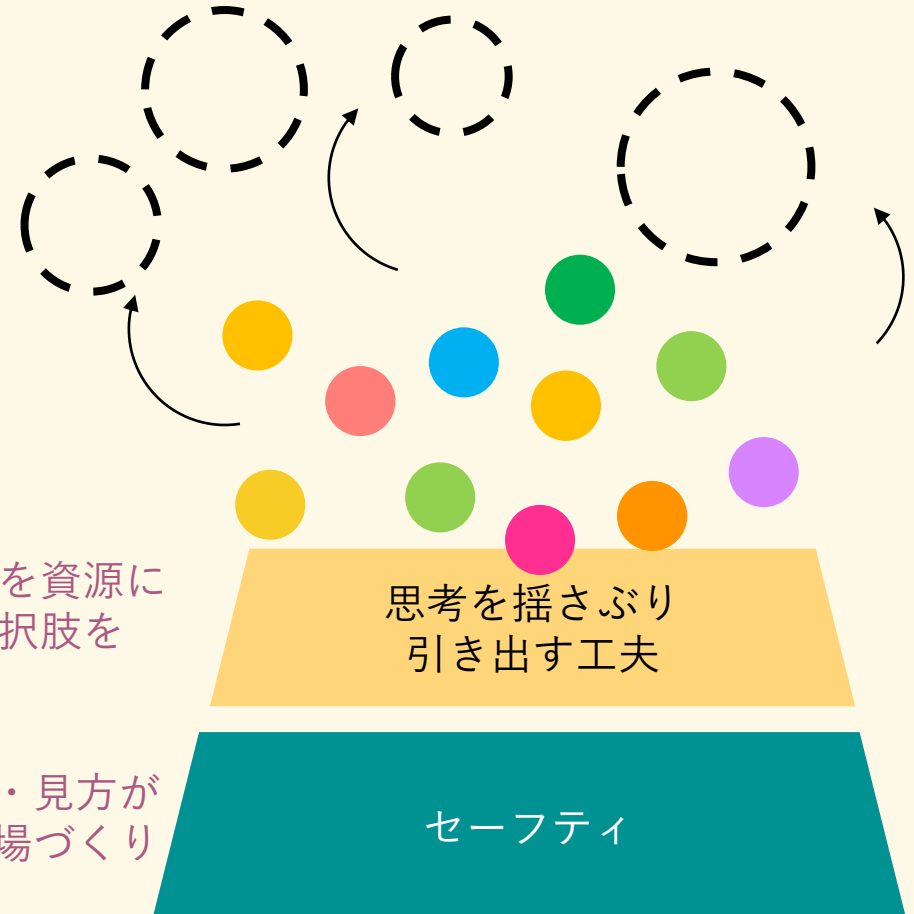
目指していること

対話的な意思決定の文化を地域に醸成し、
創造的に進化し続ける自然共生社会を
実現すること

co-designをデザインする

さまざまな立場の人が集い、共に考え、意思決定
を行う対話と共創の場のデザインに従事

創造的な対話の場を作りアクションを生み出す



地域社会の共創は多層的に展開する必要がある

集落

- 佐渡市内に300以上ある。
- 農業、地域防災、文化行事・祭などの基本単位



地域・流域 バイオリージョン

- 集落の境界を超えて広がる
- 自然再生事業などで重要となる単位



自治体

- 行政課題に対する取り組み推進や政策デザインなど、自治体全体に関わること
- 自治体が核となり、異なるステークホルダーをつなぐ



佐渡島自然共生ラボ

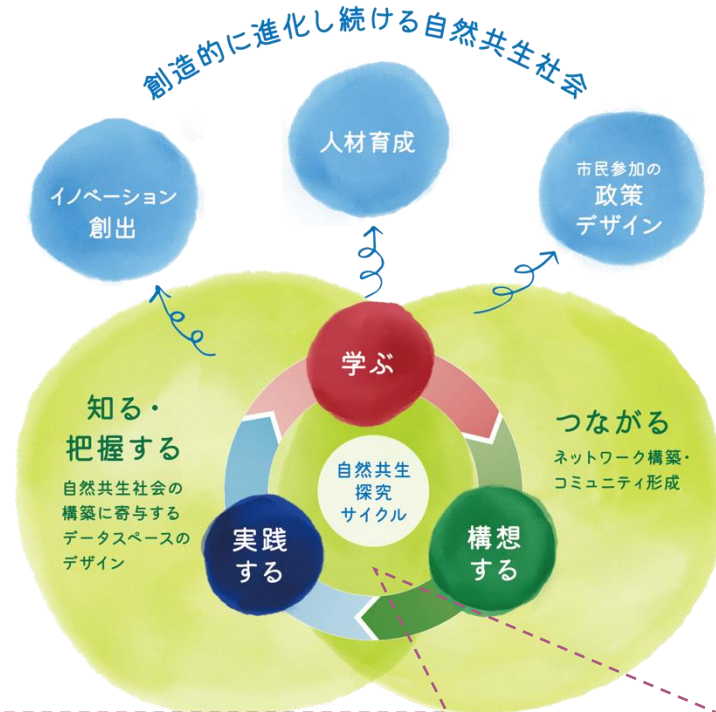


自然と共生する未来を探し、豊かな暮らしを創り出す

佐渡市、新潟大学、株式会社NTTデータの声がけで2022年11月22日に開設されたリビングラボ

さまざまな産業に従事する人びと、企業、自治体、大学などがつながり、アイデアを重ねながら、サステナビリティをめぐる課題に挑む。

- 荒廃した自然の再生
- 自然資源の好循環の創出
- 放棄された自然の再資源化



地域住民や地元企業との協働による自然共生の多彩なプロジェクト

市民の発案による
ハンズオン事業

企業の技術提案
社会実証実験

大学が展開する
研究プロジェクト

自治体による市民
参加の政策デザイン

地域社会の共創では 総合知が自然と生かされている

事例：子ども未来舎りぜむ

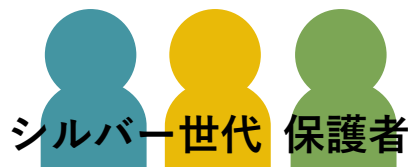


- 地域の課題を語り合う対話から生まれた子どもの居場所づくり
- 集落住民の有志が核となり運営



日本財団の助成を受けて
2023年1月にオープン

子どもたちが幸せを感じられる集落をつくらう！



元幼稚園
園長



元養護教員



保育士



地域おこし
協力隊



竹のアスレチックを作ろう！

自転車を使った発電機作ろう！

活動の新たな展開に応じて、地域のスペシャリストに声をかける

地域社会の共創の現場からの問い

1. 知のヒエラルキーをいかに解消するか？

異なる
分野

定量
定性

学・民

ロゴス
ピュシス

2. いかに未来を語れるようになるのか？

里山農業の未来デザイン

里山農業の持続的発展はいかに可能か？

集約化・効率化が困難な農業を支えるための技術とは？
生物多様性の島ならではのアグリーノベーションとは？

文部科学省「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（DESIGN-i）」助成事業
新潟大学・佐渡市「生物多様性と農業技術革新が共存するエコロジカル・コミュニティの実装に向けて：里山創生「佐渡モデル」の構築」（2019～2020年度）

- ✓ 徹底した地域対話の展開
- ✓ 地域ニーズからのソリューション探索
- ✓ デザイン思考的アプローチの展開



里山未来会議

バックキャストिंगで地域の未来を描き、
実現に向けたソリューションを探る



過疎化・高齢化により
未来を考えること
ビジョンを描くことが
極めて困難な状況

地域資源の発信 交流の促進

- 地域農業者の声
- 技術者・研究者の意見
- アクションのタネ
- 検討事項

アイデアと アクションのタネ

里山未来会議で議論した
アイデアの数々と
地域課題解決に向けた
アクションのタネを紹介

歌見田若手会議



農業者で
よく話すには？
米以外の作物は？
米以外の仕事は？
米以外の収入は？
米以外の収入は？
米以外の収入は？

米を売するための
新しい販路を
開拓できないか

消費者の声を
直接聞きたい

東京に行って
米を売りたい

まずは
自分たちで
農地全体の現状
を一目で分かる
ようにしましょう！

農地の見える化

アグリノートで農地状況
など情報を集約！
耕作状況で農地を色分けしました
※アグリノートは㈱ウォーターセルが
開発した営農支援アプリです

農地を全体的に
見ることで
集落全体としての
課題が明らか
になりました



アイデアと アクションのタネ



風景を守り
人を応援するための
経済を生み出せ
ないか

畜産業との
連携で
農地を活用
できないか



外部との交流を
活発化し、
地域のサポーターを
増やせないか

修学旅行生を
子どもたちに佐渡を
第二のふるさとだと
思ってもらいたい(須上麻耶)

虫崎では田植えや
盆踊りにたくさんの人を
呼んでいる。もっと交流を
強化したい！(渡見由紀)

大学生や若者の
柔軟な発想で
新しい解決策を
生み出せないか

大学生を招き、
アイデア創出
ワークショップを
開催したらどうか

自然栽培を
学べる学校を
作りたい

新しい経済の
創出

農業収入は不安定。
稼げるようになる
ことが大切では

多様な
収入源

集落の人口
減少が進み、
担い手がない

交流

学校との連携で
農地を活用
できないか

授業で
田んぼを
使ってほしい

海外からの
農業実習生を
受け入れたい

スマート
農業技術も
学べるとよいかも

販売ルートの
開拓

農業収入の
向上

担い手の
確保

教育

新規就農者を
受け入れるしくみが
必要ではないか

環境にやさしい農業
を学ぶ学校を
作ることは
できないか

環境にやさしい農業
を学ぶ学校を
作ることは
できないか

農作業の 効率化

**スマート
農業技術の
探査**

ドローンによる防除

リモコン草刈機

最新農機は
高価...

傾斜斜面・
石の多い地質で
リモコン式草刈機は
使えるだろうか...

最新農機の導入で
作業の省力化を
図れないか

草刈りや防除の
回数を減らすことは
出来ないだろうか

省力型かつ生物多様性
にも考慮した農法、
IBM (総合的生物多様
性管理) 佐渡モデルの
開発が出来ないか

ほ場を使って
省力型農法の
研究を
始めよう

農機をシェアする
しくみを作る必要が
あるのでは

いざという時に
助け合える関係性を
作りたい

どのような
組織や体制が
必要となるのか

さまざまな
組織づくり
勉強会を
しよう

省力型 エコロジカル 農法

おそろいの
Tシャツで
作業して
みよう

さまざまな
組織づくり
勉強会を
しよう

地域社会の共創の現場からの問い

1. 知のヒエラルキーをいかに解消するか？

異なる
分野

定量
定性

学・民

ロゴス
ピュシス

2. いかに未来を語れるようになるのか？

3. ひとりひとりのウェルビーイングを実現する・・・ 多様なウェルビーイングとどう向き合うのか？

里山未来会議での対話から

いろんなところに田んぼがあるから、水の管理だけでも時間と手間がかかって大変！

今は水の管理を自動でできるしくみが開発されています。田まわりの手間が減らせますよ。

田んぼは毎日見に行かないとだめなんだよ。子育てと同じだよ。放っておいちゃダメ。

- この農業者にとってのウェルビーイングとはなんなのか？
- ウェルビーイングを自覚することは案外難しい

対話からの気づき

- 他者との対話を通してそれぞれが大切にしていることを引き出せないか？
- ウェルビーイングを追求する力を培うことこそがエンパワメントに不可欠なのではないか？

地域社会における共創と総合知 まとめ

異なる知の間の
ヒエラルキーに
敏感であること

ウェルビーイングの
多様性と不確かさを
認識すること

総合知が生かされる探究の基盤
他者理解→創造性

地域社会の変革へと
つながる総合知の醸成

